



別海町の南矢白別に祀られている馬頭観世音菩薩座像は、国後島泊村の松泉寺で住職をされていた松田光保さんが昭和二十年の脱出時に持ち出したものです。松田さんは仏像の他にも信徒名簿、経本などを持ち出していました。

光保さんは脱出後、別海町の上風連開禅寺の住職をされていましたが、昭和二十三年に根室の寺院に移る際、香川地区（南矢白別町内会）にこの菩薩像の引き取りを相談し、当地区有志によって一坪のお堂が建てられ、菩薩像が安置

されました。年月の経過に伴い、当時の経緯や菩薩像の存在を知る人が少なくなってきたことから、平成二十一年に傷みの激しかった菩薩像や観音堂の修繕とその由来の調査が行われました。

調査の結果、この菩薩像が国後島泊村古丹消地区の観音堂に収められた三十三軀のうちの一軀であること、また光保さんの父であり、同じく住職だった松田法尊さんが古丹消の住人から依頼を受けて京都の松尾寺から取り寄せたものらしいことが分かりました。

現在、この菩薩像は別海町の有形文化財に指定されているほか、毎年六月十五日には僧侶を招き、馬頭観音祭が催されるなど大切に祀られています。

なお、光保さんは、根室に移られた後も空襲で焼けた開法寺に島から持ち出した経本を寄進するなど、開法寺の復興にも貢献をされています。



馬頭観音堂

◆所在地◆

南矢白別馬頭観音堂  
(別海町指定文化財)

- 【住所】 野付郡別海町上風連38-4
- ・別海町役場から車で約15分
  - ・旧奥行臼駅逦所から車で約20分

※馬頭観世音菩薩座像は年に一度、6月15日に地域のお祭り「馬頭観音祭」で一般公開されています。

